



山行報告

★ 火打山(10月2日～3日)

参加者 会員(障害者3名、健常者10名)、

★10月2日

妙高高原駅が近づくにつれて、飯縄山や黒姫山、妙高山が見えてくる。奥の方には戸隠山も見えてきた。素晴らしい青空が広がっているが、妙高山には、少し白い雲がかかり始めているのが気がかりだ。

タクシーで笹ヶ峰まで入り、登山道を歩き始める。先程まで素晴らしい天気だったが、黒沢橋に着く頃には、すでに上空は雲に覆われていた。しかし周囲は、赤く染まったナナカマドやカエデが美しい。時折歓声が聞こえる。斜面をトラバースし、急な十二曲がりには、ジグザグに登っていく。帰りに数えてみたら、カーブは間違いなく12回あった。

十二曲がりを過ぎると尾根上を行くが、すぐに急な岩場が出てきた。そこは視覚障害者のみなさんにも手を離して、岩に掴まって登ってもらう。登山道は、ぬかるんでいて滑りやすい。とうとう、雨がポツポツと降り始めた。

富士見平で高谷池に行く道を分け、滑りやすい斜面を下り気味に歩く。ようやく黒沢池の湿原に下り、木道を快適に歩く。視覚障害者のAさんが、数年前に来たときよりも、ずっと楽に登れたことを喜んでいて、Aさんのひたむきな努力が、少しずつ実ってきたのだろう。

黒沢池ヒュッテに着き、テント組と小屋組に分かれて、受付をすませる。テント組は、雨が心配だが、気楽に大笑いしながら、食事を取り、眠りについた。



紅葉の中の黒沢池ヒュッテ

★10月3日

翌朝起きると、曇っているが一部に視界もあり、昨晚よりは天気が良いようだ。小屋の人たちは、食事の時間が30分ほど遅れ、5時30分から朝食となる。食事のメニューは、この小屋の定番、クレープだ。テント組は簡単な食事だったので、うらやましい。



黒沢池ヒュッテ前にて

予定より遅れて6時25分に小屋を出発する。少し登って振り返ると、小屋の周りから大倉山

方面の斜面が、色とりどりに染まって美しい。晴れていたら、どんなにきれいでしょか？

茶白山を越え、高谷池に飛び出す。池の周囲はガスがかかって、残念ながらにも見えない。木道を歩き、大きな岩がゴロゴロする歩きにくいところを、岩をぬいながら登っていく。登り着くと、そこは日本庭園のような所々に岩が点在する美しいところだ。さらに行くと、天狗の庭に着く。ここは晴れていれば、火打山を池塘に映し、素晴らしいところだが、今日はガスに巻かれて、なにも見えない。それでも、幻想的な雰囲気を作り出している湿原を楽しむ。

天狗の庭から、緩やかな登りを進む。何人かの人々は、登山道の脇にザックを置いて、身軽になって登る。雷鳥平を過ぎると、斜面が崩れないように板で抑えた道を登るようになる。夏はお花畑のところだ。今回は、シラタマノキやコケモモが実を付けていた。コケモモは、熟して、食べ頃だった。



10時15分、ようやく山頂に到着。天気が良

★鳴虫山(10月16日)

参加者 会員(障害者2名、健常者10名)
会員外(健常者2名)

理事長のアクシデントで急遽リーダーを務めることになり、緊張のうちに東武浅草駅発

ければ、北アルプスや戸隠の山々、そして焼山、妙高山などの山が見えるのだが、ガスに巻かれてなにも見えない。Sさんは、カステラを持ってきて、振る舞ってくれた。テント組は、朝食が早かったこともあり、おなかを空かせて、カステラをはじめ、行動食を出してくれた人に群がっていた。

記念写真を撮影して下山にかかる。雨ではあるが、登山者は多い。いろんなパーティーとすれ違いながら、下っていく。デポしたザックを背負い、さらに下る。高谷池ヒュッテのテント場の近くで昼食にする。暖かなコーヒーがおいしかった。

ここから富士見平までのトラバース道は、岩や木の根を何度も越えるため、とても疲れるところだ。しかも、足下はぐちょぐちょになっている。苦勞して、1時間10分後ようやく富士見平に到着。ここからも、滑りやすい道を慎重かつ大胆に下り、黒沢橋についてホッとする。ただ時間が過ぎて、もうバスがないため、TさんとHさんに先に下ってもらって、タクシーを呼んでもらうことにする。

途中、沢を2度渡るところがあったが、他はほとんどが木道のため、コースタイムどおり40分で笹ヶ峰に着いた。水道で雨具や靴の泥を落とし、タクシーを待つ。寒冷前線が通過したのだろう。とても寒い。タクシーに乗り込み、暖房を入れてもらい、夜道を妙高高原駅に向けて飛ばしてもらった。

8:10分の電車は発車しました、紅葉の時期の日光行き快速さぞ混んでいるものと思っていたのですが意外に空席が目立つ状態でした。北千住、春日部と過ぎたころ、女性メンバー3人のボックス席では合い席の登山者にモーレツに営業している様子、アット言う間に日光に到着。

声だしの後ひんやりとした空気の中を歩き出し駅から登山が売り物の鳴虫山登山口に向

かう。

登山口から 10 分ほどゆっくりと登ってゆくと神社があり、今日の安全登山を願って正式に礼拝、衣服の調節を行い本格的に登り始める。



神主山にて昼食風景

神主山までは日光杉の間を縫う緩いのぼり、やがて熊笹が両脇から覆いかぶさる急登を 10 分ほど登ると神主山山頂に飛び出す、南側は杉木立に覆われているが北西面は展望が開け、赤薙山に連なる女峰山、丸山、そしてその麓にある東照宮、輪王寺まで見渡せ東照宮を上から見るのは初めての声も聞かれました。残念なのは曇



雑木林の道を歩く

りの為、赤薙山の山麓は紅葉なのか山肌なのかははっきりしない状態でした。此处で昼食お腹を満たし鳴虫山へ出発。

一度下降し登り返したあとの 892 ポイントあたりより頂上迄この山の売りの一つシロヤ

シオ、アカヤシオのツツジの群落が始まりその葉を通した光が差込んで穏やかな雰囲気を作っていました。日光市よりの道が左手より合わさり、いよいよ張り出した木の根が階段状となった急登が始まります、左に幽玄な杉木立、右手は軽やかな紅葉樹の尾根の急登を登って約 30 分鳴虫山山頂に飛び出しました。

山頂からはやや色付き始めた木々の上に赤薙、女峰、そして男体山がそびえそれぞれの山の山腹の紅葉が始まっているのが望めました。



鳴虫山山頂にて

帰りは新米リーダーの為理事長をお願いして、来た道に戻るコースに変更させていただいたように登ってきた道を下り始めました。懸念していた急坂部分も木の根が階段の役目をしたのとベテランサポータの力量で難なく通過することが出来、予定より多少早めに日光駅に到着することが出来ました。

そこで車内飲料、食料を買い込み丁度具合良くわれわれの為に用意してくれた？臨時快速に乗り込み、日光の山々の素晴らしい夕焼に見送られながら無事帰路に着きました。皆様のご協力のおかげで無事新米リーダーの役目を果たすことが出来ましたありがとうございました。

記：Y

★西沢溪谷(10月31日)

参加者 会員(視覚障害者 4 名、健常者 7 名)
会員外(健常者 3 名)

前々日迄天気予報は降水確率 80%、ところが前日突然 20%前後の予報、なぜ？これは行くべきと天気予報を信じて理事長と山行き実行の決定。

ところが当日朝起きてみたら雷もなる土砂降り、わ！裏切られたかと思いつつも新宿駅に向かう。

新宿 7:00 発京王準特急で高尾に行き、JR 高尾発甲府行きに乗り換え塩山が近づくに従い、雨は上がり、青空も出始める、万歳！神はアルプに味方してくれた。

塩山駅よりタクシーで西沢溪谷に、溪谷が近づくにつれ両側の紅葉も、溪谷入り口手前の笛吹き川をせき止めて作った広瀬湖は今まさに紅葉の真っ盛り、車中よりわー！！綺麗な連発。

前日までの雨予報のせいか思ったより人は少なく（実はまだツアー客が着いていなかった）、順調に 20 分ぐらいで西沢山荘（休業中）に到着、此处で衣服の調整、二股の吊橋を渡りいよいよ山道に、西沢の流れも急流となりやがて魚留滝、三重の滝と次々に滝が現れ、周りの紅葉と流れが作る溪谷美を満喫。人面洞を過ぎるころから、岩のわずかな隙間を縫って作った細い道と右側のがけから滴る雫を浴びながら沢の淵を歩くようになる、ただし左側の沢との間にはしっかりと鎖の保護策が設けられているのでまずは安心。



きれいに色づいたモミジ

此处で後ろを振り向くとわれわれの後ろに長蛇の列、これは申し訳ないと広い場所を探しよけたのですが、いつまで待っても列は切れませ

ん、思い切って歩いてくる人に聞いたところ色々なツアーの人の行列とのこと、それでは待っていてもきりがないとわれわれも間に突入して進軍開始。止まっていると後ろは渋滞、この道で追越されるといつまでたっても自分たちが歩き始めることが出来ない、なるほどこれが案内書に書いてあった大混雑なんだと改めて実感。



七ツ釜五段の滝

竜神滝、恋糸の滝と過ぎて前方に木製の橋を発見、なんだか変な感じ、橋の袂に人だかりがして進んでない。そばまで来ると一人ずつ渡っている、なんでそんなことをしているんだろ、と思って橋の欄干を見ると、この橋は一人ずつしか重量制限上渡れないことになっている、アルプの渡ったあと、うしろを見ると、すごい渋滞、橋を渡るのに 30 分ぐらい待つんじゃないかと思われるくらいです。



不動小屋跡にて

此处を過ぎちょっと急なぼりを登ると、西沢溪谷のメインである七つ釜五段の滝が現れる、木々の紅葉と、その中を何段にも重なって落ちる滝の眺めは素晴らしいの一言です。五段の滝

を眺めたら今度はお腹を満たさなければと、しかしこの人の多さから、折り返し点の場所はあふれかえっているのではと、丁度、川原に下りていける小道を見つけ此处で昼食にすることに決定。

30 分ぐらいの昼食の後、いよいよ最後の急なのぼり、階段と急坂を 10 分程度登り頂上？展望台に到着、やはり途中からすでに食事をしている人でいっぱい、全員での記念撮影後、早々に帰り道の軌道跡を歩き始める、この軌道跡は道も良く幅も広いので、景色を楽しみ、そ

れから写真教室を開き？（誰が先生なのだ？）などしながら歩く、だけど立ち止まるとやはり渋滞。途中の大展望台、山の神神社などで休憩後、無事ねとり橋に到着。

紅葉、沢の流れと数々の滝、を満喫、そして何よりも一日もってくれたお天気と参加して協力してくれた皆さんに感謝しつつ帰路に着きました。

記：Y

★鍋割山(11月6日)

参加者 会員(障害者2名、健常者7名)
会員外(健常者1名)

新宿駅集合組7名と渋沢直行組3名とそれぞれ予定どおり渋沢に集合。予約しておいたタクシーで二俣手前のゲートまで行ってもらう。これで当初の予定より1時間30分の短縮である。下見の時は、林道を1時間半歩き帰りが真っ暗でとても心細かった為、本番は、タクシーを利用する事にしていた。

いよいよ二俣から登山道に入っていく。1時間近く歩くとうっすらと汗ばみ、少し見晴らしの良いところで休憩を取る事にする。これから先は、歩きにくくはないが、急坂が待っている。周りを見ると強烈な紅がすくないせいか、パステルカラーの紅葉が味わい深い秋を感じさせてくれる。

時折ガスがかかり周りの山々が真っ白にかすんで何も見えなくなってくる。標高が高くなるにつれ、春のような日差しになり見晴らしもよく、遠くの山並みが色づいている様子が見えてきた。ゆっくりゆっくり急坂を登りきると右は塔ノ岳、左は鍋割山へと続く二俣分岐に着いた。あと30分ほど歩くと鍋焼きうどんが待つ

ているが早い時間に朝食を食べた者にとっては、どうにもお腹が空いてもたない。木漏れ日



鍋割山荘前で

が差し込む木立の中で、落ち葉の上に腰を下ろす。急坂を登って来た汗をぬぐい、うどんの入る隙間をおなかに空けておく程度の食料を口にする。あとひと登りで山頂だ。メンバーより



これが鍋割山荘の名物鍋焼きうどん

10分ほど先に行って、小屋の方にうどんの用意をお願いする事にする。山頂は、下見の時よ

り人が多く座る所を探してみたが、良く見ると鹿の糞だらけ。これには困った。まもなくメンバーが到着し、そのうちベンチが空きうまくテーブルに着く事が出来た。有名な鍋焼きうどんの登場。見晴らしの良い山で食べるうどんは、街で食べた時よりも一味も二味も美味しく感



じられた。20年前に皇太子様が登られた時には、鍋焼きうどんをたべなかったそうだ。メロンをお出ししても良いですか？と聞いてお出ししたそうだ。メロンより鍋焼きうどんのほうが食べたかったと、私は思うけど……。お腹が一杯になった所で地図を出し、遠くにうっすらと霞がかかった山並みをあれは、あれが蛭ヶ岳、こっちは丹沢山、たぶん向こうに見えるのは、松洞丸かな？と自信の無い解説を試みた。「富士山はこっちかなあ？」「あれえあっちじゃないの？」とメンバーは、納得したようなしなないような、聞いているのか聞いてないのか。

★富山(11月20日)

参加者 会員(障害者3名、健常者7名)
会員外(健常者1名)

千葉駅から内房線に乗り換え、岩井駅まで約2時間の長旅だ。車窓から、真っ白な雪を抱いた富士山が見えた。

岩井駅に降り立ち、出発の準備をする。地元の人が、今の時期はまだ蛇が出るから注意をし

まあいいか。

もう少しぼうっとしていたいなあというメンバーの声に引きずり込まれそうになるのを抑えて下山開始。後沢乗越まで急坂を下りていく。「リーダー！速いよう。」と後から声がかかる。おっといけない、下山を得意とする視障者のAさんにブレーキをかけ、ゆっくり休憩を取りながら行く事にする。やがて沢治いを歩き、丸太の一本橋が出てくる。ここが視障者の方達の下りの核心部。しかしそこは、バランスの良いAさんとTさん。難なく通過していくのは、さすがである。橋を渡るとまもなく二俣へ続く林道に出る。

次の山行の話しをしながらおもしろおもしろに林道を歩く山仲間アルプ10勇士。そこには、10代から60代までの口八丁手八丁の老若男女。皆で力を合わせ6時間に渡り、鍋割山と戦った勝利の顔があった。理事長に無事下山の報告をし、最後までチームワークの良い十勇士は、意気揚々と夕暮れの居酒屋へと足は、向かっていた。お疲れ様！カンパイ。

下見の時から本番の時まで多くの方に力になってもらいました。本当にありがとうございました。

記：N

の方がよいとアドバイスしてくれる。11月も下旬なのにまだ蛇が出るのかなと疑っていたが、山道にかかったところで蛇に出会い、アドバイ스가正しかったことに驚く。

車道を歩いていると、左手の木の上にモズが「キキキ・・・」と高鳴きをしている。様子をビデオに収め、その場で確認しあう。道路脇には、スイセンが咲き、椿も咲いている。福満寺から登山道に入る。こちらからの道は表参道だ。

急な登りを過ぎると少し下り坂となり、そこが五合目だ。ここからさらに急になるが、その手前にスイセンのお花畑があった。花を付けているのは少ないが、いくつかきれいな花を付けていた。



急な階段を上っていると、ボーイスカウトの人たちが元気に追い越していった。こちらはゆっくり登る。登り着いたところが、南峰だ。滑りやすい石段を上がると観音堂が立っている。周囲には、インパチェンスという栽培品種の花が一面に咲いて美しい。

南峰から少し下り、北峰で昼食とする。北峰は素晴らしい見晴しだ。富士山はもやに隠れて見えないが、東京湾の入口に近い海が広がり、館山湾はきらきらと光り輝いていた。昼食をすませ、南峰とのコルで、トイレタイム。皇太子

ご夫妻は、ここまで車で来て、北峰を往復したらしい。

ここから裏参道の道を下る。一カ所滑りやすい階段があったが、難なく下り、コンクリートの道に出る。周囲の尾根の紅葉を楽しみながら、空を見上げると鰯雲が広がっていた。さらに口



ール状の波状雲が流れ、かぎ状の巻雲も広がって、上空高いところに見える雲たちが、青空のキャンパスに思い思いに絵を描いているようだ。

途中、伏姫ノ籠窟に立ち寄り、岩婦温泉に向かう。伏姫荘で温泉に入り、お願いしたら、駅まで車で送ってもらえた。伏姫荘の方は、市の障害者の支援もしているそう。小春日和の中で、南総里見八犬伝ゆかりの地を楽しむことができました。

■中止となった山行

- ・大霧山(9/4) 雨のため中止としました。
- ・富士山(11/27,28) 事務局の都合により、中止させていただきました。

講習会報告

●登山技術講習会(岩登り)(9月12日)

参加者 会員(障害者3名、健常者4名)

高さ20mの岩場を一登りすると、びっしょり汗をかく残暑厳しい日に、日和田山で岩登り講習会を行いました。

今回は、岩登り初体験の方はいませんでしたが、男岩の南面フェースと西面クラックルート上部(4級+)、及びアンダーリングフェース下部(5級)を登りました。南面フェースは、みなさん順調に登りましたが、クラックルート上部は、全員が挑戦したものの、クラックにかか



男岩南面を登るKさん

る手前で、惜しくもリタイヤとなりました。アンダーリングフェースは、SさんとNさんが

チャレンジしましたが、残念ながらアンダーリングまで届かずでした。通常の登山道で、このような厳しいところは出てきませんが、腕力に頼らず、バランスで登ることで、岩場の歩行時のバランスが良くなると思います。これからも、何度か挑戦して行ってほしいと思います。

それにしても、岩場で練習する人の多さに、ビックリでした。午後3時を過ぎると、かなり空いてくるので、それから思い切って、岩登りを楽しめました。

●気象講習会(9月15日)

参加者 会員(障害者7名、健常者15名)
会員外(健常者2名)

市川市文化会館第4会議室で、19時から21時まで、気象研究家の幣氏に講師をお願いし、気象講習会を行った。テーマは、「天気予報の裏を読む」という興味深い内容で、天気予報の受け止め方や、これから初冬に向かっての気象についてお話を伺った。

◆講習内容

1. 天気予報に強くなる
 - ・天気予報の本音を探る
 - ・降水確率何%で雨具が必要か
 - ・世界で一番難しい関東と東北太平洋側の天気予報
2. 登山に役立つお天気ミニ知識
 - ・登山とプロポーズ
 - ・天気諺「女(男)心と秋の空」の検証
 - ・飛行機雲は高層気象の生情報
3. 秋から初冬にかけて登山に怖い天気図
 - ・快速台風は暴風を加速する
 - ・台風と秋雨前線は大雨や長雨をもたらす
 - ・木枯らし1号(寒冷前線)は寒波を呼ぶ

■中止となった講習会

- ・登山技術講習会(岩登り)(11/21) 事務局の都合により、中止させていただきました。

その他事業報告

★八千代市サポートセンターまつり(11月3日)

参加者 会員(障害者2名、健常者11名)

どの歌と踊りで盛り上がりました。

このような催しに参加できたことを、八千代市

千葉県八千代市の市民活動グループを応援している「市民活動サポートセンター」が、今年はいじめて開催した「こんにち'わ'ふれあいまつり」に山仲間アルプも写真展示などで参加しました。

これまでに撮影した写真の中から11枚を展示し、ノートパソコンを使ってこれまでの山行の様子を撮影したビデオや、ホームページの紹介も行いました。

まつりは、八千代市長の挨拶に始まり、ステージで和太鼓やマジック、人形劇などが各団体から披露され、綿菓子やポップコーンなども実演販売されました。また、子供たちのスタンプラリーも行われました。最後は、ソーラン節な



山仲間アルプのブースの前で

市民活動サポートセンターに感謝すると共に、山仲間アルプの展示に駆けつけてくださった会員のみなさん、どうもありがとうございました。また、山仲間アルプのブースを訪れていただいたみなさまに感謝いたします。

★第3回ふれあいハイキング(養老溪谷周辺)

参加者 会員(障害者5名、健常者13名)

会員外(障害者3名、健常者9名)

天気予報がころころ変わり、実施か中止か直前まで迷ったが、養老溪谷に着く頃には止んでいる可能性が高いと判断し決行とした。

朝、起きてみるとまだ雨が降っていたが、家を出る頃にはほぼ止んでいた。養老溪谷駅に着くとポツポツと雨を感じたが、降っていると言うほどではなかった。

参加者のみなさんに名札を配り、声出しをして出発する。民家の庭や道路の脇に、時折真っ赤に色づいたモミジがある。舗装道路を車に注



奥養老バンガロー村で昼食

意しながら、ゆっくりと歩く。夕木から急なコンクリート道を慎重に下る。濡れているので、とにかく滑りやすい。下りきると、今度は奥養老バンガロー村に到着する。ここで昼食タイムを約1時間取る。ブロッコリーや柿をたくさん持ってきてくださった方がいて、ご馳走になってしまった。

植物の先生、Kさんからキッコウハグマやカンアオイの花を教えていただいた。キッコウハグマの花を見られるのは、珍しいという。

バンガロー村から下り、橋を渡る。ここから車道をコスモスやたわわに実った柿の木を楽しみながら、ゆっくりと歩く。共栄橋の手前から弘文洞を見に行く。岩盤の上を流れる水深の浅い養老川を右手に見ながら行くと、飛び石づたいになる。私と足に障害のあるSさんはここで待ち、他の人たちには、弘文洞のよく見えるところまで行ってもらう。

共栄橋まで戻って、トンネルを過ぎ、養老溪谷温泉郷を過ぎると眼鏡橋のような観音橋に着く。全員がここを渡って、高台にある出世観音にお参りに行った。出世には縁のない人もいると思うが、若い人たちにご利益があるだろうか？

個人山行報告

★硫黄岳(9月18日～19日)

参加者 会員(障害者2名、健常者4名)

★9月18日

茅野駅に降り立ち、予約していたジャンボタクシーに乗り込む。ジャンボタクシーは割安でありがたい。かなりの凸凹道を走って、桜平で下りる。キノコ取りの人たちが、かごにキノコを入れて、集まっていた。これから夏沢鉱泉で、キノコの鑑定をするらしい。桜平には、キノコ取りの人たちが大勢いたせいでろうか、車がたくさんあった。

少し行くと、カモシカがいた。沢の向こうだったが、写真を撮らせてもらった。緩やかな道を登って夏沢鉱泉に着くと、テーブルの上にキノコを広げて鑑定中だった。中には松茸もあった。タマゴタケとベニテングタケの違いを教えてください。今度は、私もタマゴタケを取ることができるだろう？



地元の農家の出店や菊の展覧会などを見ながら、白鳥橋を渡って、来たときの道に合流する。せっちな人たちはどんどん先を急ぐが、後からのんびりと歩いて、午後4時過ぎに養老溪谷駅に到着。駅前で記念写真を撮って、解散とする。

泣き出しそうな空模様でしたが、最後まで雨が降らず、秋の里を楽しめました。



沢沿いの道をさらに行くとオーレン小屋に到着した。オーレン小屋は、新しい檜の風呂に入ることができた。そして、夕食はなんと桜肉のすき焼き！ ちょっとしょっぱかったけど、汗で流れた塩分を補給できて、大満足。

★9月19日

昨晚から、まだ雨は降り出していないようだ。ただ、外は濃いガスに包まれて景色は見えない。小屋のテレビで見た天気予報は、午前中曇りで、

午後から晴れる予報だ。小屋のおいしい朝食を食べて、峰の松目に向けて出発。

シラビソの密集した林を、緩やかに登り、峰の松目と赤岩の頭の鞍部に出た。AさんとTBさんはここで待っているというので、他の4人で峰の松目を往復する。ここは、今回一番の急登だった。シラタマノキが白い実をたくさん付けている。囁むとメンソレータムの味がするのだが、THさんは、甘みがあっておいしいという。急登が続いたが、ようやく峰の松目に到着。展望はないが、ここに来たのははじめてだったので、記念写真を撮る。

AさんとTBさんが待つ鞍部に戻り、硫黄岳を目指して登る。雨も降り始めたので、雨具を付ける。樹林が切れ、ハイマツが出てくるとほどなく赤岩の頭に到着した。残念ながらガスで展望は全くない。ここで、TBさんは、待っているというので、他のメンバーで硫黄岳を往復する。ガレた道となり、岩場を通過すると、硫黄岳の山頂の一角に出る。サポートしていたAさんの様子がおかしい。感激で涙があふれてき

たようだ。Aさんは、高度に弱く、体調に気を配りながら、今までで最も高度の高い山頂に着くことができ、感激したのだろう。山頂標識の前では、大きな声で「バンザイ」と言っていた。

記念写真を撮って、TBさんの待つ赤岩の頭に戻る。そこから、樹林帯に入り、ジグザグの道を下って赤岳鉱泉に到着。ここでお昼を食べる。Aさんは、あまり喉に通らないようだ。



チョウセンゴミシの実

北沢沿いの道を下り、堰堤広場から林道に行く。美濃戸山荘で、お茶をいただき、さらに林道を下って美濃戸口に到着。八ヶ岳山荘で、風呂に入って、最終のバスで茅野に向かった。

記：A

ぬくもり

師走の朝は遅い 霧が晴れて
見慣れた山脈が 目の前に表れた
厳しい寒さを迎える おごそかな姿である
尾根に登っている時 「孫は神様だ」 友は言う
ふっくらとした肌のぬくもり 清々しい泣き声がいい
私の孫は生まれた時に もう音がなかった
3歳になって幼稚園の日 めそめそ泣いたり
けんかをしていないか そおっとのぞくと
「おじいちゃん」 うれしそうに顔が輝く
帰り道は小さな手を しっかりとぎった
生きているということは ふるさとの山を思うこと
生きている間いつまでも 手をつないであげたい
引揚げて来た時両親が 必死ににぎりしめた手
今肩を寄せ合って 一緒に歩く仲間の手も
私には皆な同じ ぬくもりが忘れられない

記：I

各種報告事項

◆ホームページ情報

ホームページのアクセス数は、11月末日現在約13900のアクセスがありました。ホームページは、機関誌に掲載できない多くの写真が掲載されています。また、各種情報も迅速に流しています。パソコンをお持ちの方は、ぜひご覧ください。さらに、メールを使える方同士

で、メーリングリストも運営していますので、パソコンをお持ちの方で、メーリングリストに参加を希望される方は事務局まで申し込みください。もし、これからパソコンを購入したいという方がいましたら、ぜひ事務局までご相談ください。

【スポーツ保険のご紹介】

山仲間アルプで加入しているスポーツ保険は、掛け金が年間（4月1日から翌年3月31日まで）1,500円で、下記の補償があります。

- | | |
|-----------|--|
| 1. 障害保険 | 死亡 2,000 万円、後遺障害 3,000 万円、入院(日額)4,000 円、
通院(日額)1,500 円 |
| 2. 賠償責任保険 | 身体賠償(1人 1 億円、1 事故 5 億円、免責 1,000 円)
財物賠償(1 事故 500 万円、免責 1,000 円) |
| 3. 共済見舞金 | 160 万円 |
| 4. 注記 | 雪山や沢登りなど、ザイル、ピッケル、アイゼンを使うような山は、保険金の対象となりません。そのような山に行かれる方は、各自山岳保険に加入願います。 |

今後の計画

▲臨時総会の開催

平成17年1月23日(日)に臨時総会を開催します。詳細は、別紙総会の案内をご覧ください。

正会員の方で参加できない方は、委任状の提出をお願いします。

△気象講習会

臨時総会当日、総会の前に、第2回の気象講習会を開催します。今回の内容は、早春か

ら春の気象と地球温暖化です。講師は、前回と同様、幣先生にお願いしています。

▼2004年度活動計画

1月以降の事業計画を別紙に掲載しています。寒い季節となりますが、日だまりを求めて、

冬枯れの低山を歩いてみませんか？

◆感想やご意見を募集中です！！

山行に参加してみた感想を、ぜひ事務局まで

お寄せください。また、個人的にこんなところ

に行ってきたよとか、最近こんなことを思っているなどのご意見を随時募集中です。事務局ま

で、ぜひお寄せください。

◇個人山行の計画

個人山行を計画されている方は、事務局まで計画書を提出ください。計画書を提出していないと、スポーツ保険の対象にならない可能性が

大です。もしもの時のために、必ず提出するように心がけてください。

会 員 情 報

◎新入会員のお知らせ

9月以降、下記の方が新しく入会されましたので、よろしくお願いします。詳しくは、会員名簿をご覧ください。

正会員 1名

賛助会員 1名

○退会者のお知らせ

残念ですが、ご都合により、下記の方が退会されました。

1名

編 集 後 記

・理事長のつぶやき

来年、千葉県で「障害者差別禁止条例」が施行されるそうです。ですが、法律で差別する行為を禁止することはできても、差別する心は決してなくすことはできません。なぜなら、差別する心は、人間としての弱さから来ていると思うからです。そのような人に、差別を止めろと言っても、ますますガードを固めるだけのように思います。

それよりも、弱い心を克服するにはどうし

たらよいかを共に考え、共に苦労を分かち合う必要があるのではないだろうかと思えます。ただ、思うようにいかないのも事実。これはという決め手はないでしょう。

だから、山仲間アルプの活動を通じて、試行錯誤を繰り返しながら、一步一步、差別する心を解きほぐしていけたらうれしいと思います。ゆっくりゆっくりでよいから、ぜひ一緒に進んでいきましょう。

・表紙の「風のささやき」周辺の絵は、糞虫です。ちょっとソフトクリームみたいですね。(^^ゞ

・次回発行予定は、3月です。

参加申し込みやお問い合わせは事務局まで

〒276-0022 千葉県八千代市上高野 1161-1-208

NPO 法人山仲間アルプ事務局 網干 勝

TEL.047-484-8308

障害の有無も、年齢も、男女も関係
なく、みんなで山を楽しみたいね。
自然は、誰に対しても平等だよ！！

